

Title	柴田常恵氏の訃；三田史學會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1955
Jtitle	史学 Vol.28, No.1 (1955. 4) ,p.131- 132
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19550400-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の史料的价值である。例へば「南インド沿岸のヒナウルの王はこの邊の海上一帯に勢力を張り、六千の歩騎兵を擁してゐるからマラーバル地方の民は毎年、一定の貢物を納めてゐる。熱烈なイスラム教徒であるが、異教を奉ずるハルヤブといふ王に従つてゐる」(本譯書二八二頁)といふ記事があるがハルヤブとはヴィジャヤナガルの君主ハリハラ一世を指すのであり、これによつてマラバル海岸は當時、ヴィジャヤナガルの勢力下にあつたこと、従つてヴィジャヤナガルと支那との間に交通があつたといふ支那側の記録の正しさを證明することが出来るなどは私にとつて最も興味ある記事の一つである。この外、本書の記事全部が十四世紀頃の史料の寶庫といつても差支へあるまい。本書の重要性については既によく知られたことで、こゝに喋々するまでもない。これ程、有用な書であり乍ら、本譯書が抄譯であり、また注釋を缺くことは本叢書の通俗的性格から當然であるが、誠に惜しく思はれる。

博士が將來、本書の全譯注を公刊されることを我が學界のため
に待望するものである。
(和田博徳)

彙報

柴田常惠氏の訃

考古學界の耆宿柴田常惠氏が昨年十二月一日、享年八十三歳をもつて永眠された。

氏は考古學が未だ搖籃期にあつた明治三十年代から早くも東京大學の人類學教室にあつて活躍され、大正九年内務省に移つて後は、史蹟名勝の調査、保存は盡瘁され、戦後も文化財専門審議會の委員として、最後の日までこの方面の事業に力をつくされた斯界の長老である。

昭和四年本塾大學文學部講師となられてより、十五年の長きに亘つて考古學を講じ、後進の育成に當られると同時に、日吉臺附近における古代遺蹟の發掘調査を指導し、更に中國考古學調査團の派遣、考古室の創設もまた氏の努力によつて實現を見たのであつた。かように本塾における考古學研究の基礎を築き、その成果を内外に知らしめた功勞は大きく、われわれの深く感謝して止まぬところであり、こゝに謹んで哀悼の意を表し、御冥福を祈る次第である。

三田史學會例會報告

第四百貳拾四回 三田史學會例會

昭和廿九年六月九日於四號館一〇四番教室
七世紀のイギリス教會の組織について
竹内謙太郎君

——聖チャッドとテオドル——

慶應期の一揆相

山田忠雄君

エモンウェルス體制の完成について

間崎万里氏

第四百貳拾五回

三田史學會例會

昭和廿九年六月卅日於新館十一番教室

小刀會の亂

桑田治君

組の性格について——加賀一向一揆——

高輪淳一氏

奥羽北部における縄文文化以降の文化

——蝦夷とアイヌの問題—— 江坂輝彌氏

第四百貳拾六回

三田史學會例會

昭和廿九年九月廿九日於三田演說館

マサチユーセツ灣植民地初期における

神政政治

龜田政弘君

薩摩藩における天保の改革 森川英太郎君
明とヴィジヤナガルとの交渉について 和田博徳氏

第四百貳拾七回 三田史學會例會

昭和廿九年拾貳月八日於新館十二番教室

南北戰爭の原因——奴隸制度と南北經濟

的相異——

安藤滿君

井伊直弼文書の紹介

成田益規君

小机の二つの寺

淺子勝二郎氏

第四百貳拾八回 三田史學會例會

昭和廿九年拾貳月拾八日於新館二番教室

南部に於ける植民地奴隸制度 岩崎長光君

印度の風物(スライド映寫)解説 賀來壽一君

三田史學會春期見學旅行 昭和廿九年五月廿八日

箱根早雲寺及び箱根美術館見學

淺子勝二郎教授以下廿八名参加